

「昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、滋賀県立公文書館です。

昭和 100 年記念展「新聞記事からみえた百年前の湖国」

URL：[滋賀県立公文書館](#)

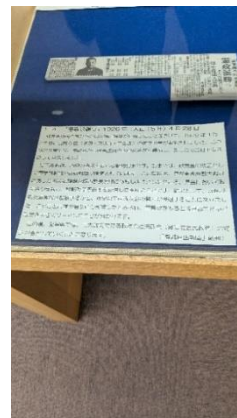
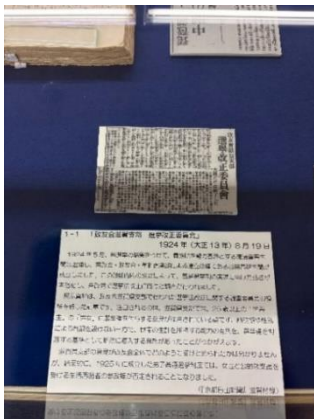
滋賀県立公文書館では、令和 5 年度から県史編さん事業を進めており、その資料収集の成果の一部を県史編さん企画展として発信しています。

昭和 100 年記念展「新聞記事からみえた百年前の湖国」は、県史編さんで収集した新聞記事を手がかりに、昭和戦前期の湖国を振り返るものとなります。



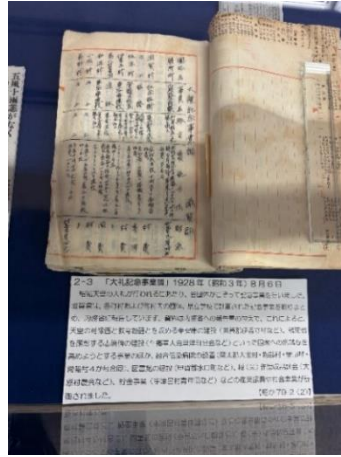
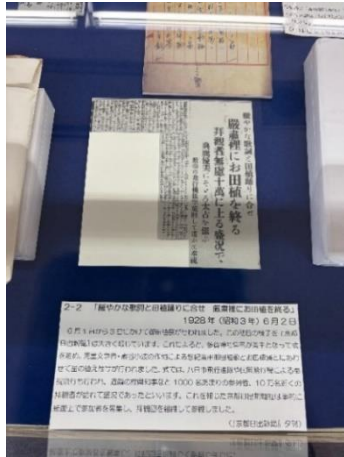
大正 14 年（1925 年）に男子普通選挙制度が導入され、昭和 3 年（1928 年）には第 1 回普通選挙が実施されました。

展示では、当時の主要政党である政友会と憲政会に関する新聞記事を取り上げており、地域の利害対立も背景とする両政党の対立など、現在につながる本格的な政党政治の起点となった時代が読み取れます。



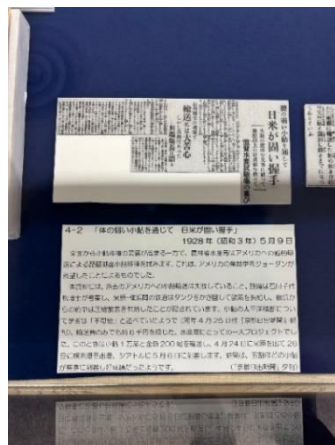
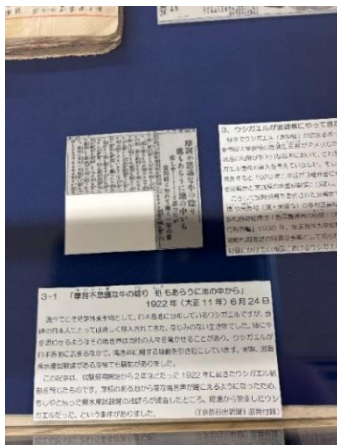
また、昭和3年（1928年）には、昭和天皇の即位儀礼である即位礼と大嘗祭が行われましたが、滋賀県は、天皇が大嘗祭で神々に供え、共食するための米を収穫、奉納する悠紀齋田（ゆきさいでん）を設ける県に選ばれました。

展示では、選定に向けた調査に関する資料や収穫に向けた儀式を紹介する新聞記事などを取り上げており、昭和の大礼に向けた人々の様子が伝わるものとなっています。



展示の中では、ウシガエルの養殖や琵琶湖の小鮎配給事業に関する新聞記事なども取り上げられています。

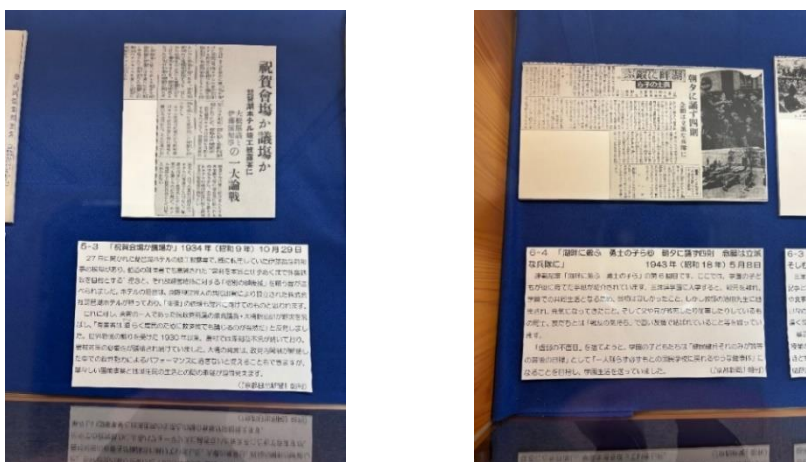
現在、特定外来生物に指定されているウシガエルですが、当時はその養殖が農家の新しい副業として強い期待が寄せられており、県でも養蛙組合が結成されるなど、日本に持ち込まれた際の時代の空気感が伝わる展示となっています。



国際観光ホテルの先駆けとなった琵琶湖ホテルや、滋賀県の障害児施設・近江学園の前身の一つである三津浜学園に関する記事などもあります。

三津浜学園は、出征軍人の遺家族の子どもで、虚弱体質児童の教育・鍛錬施設として作られたもので、当時の記事にも「健康の増進」や「立派な兵隊に」といった言葉が確認できます。

戦後に創始された近江学園が「この子らを世の光に」という方針を掲げたことは糸賀一雄氏の名言として知られていますが、戦時下に作られた三津浜学園では、戦時色の濃い運営がなされていたことが伝わる展示でした。



職員の方にもお話をお伺いしました。

滋賀県では、「県政 150 周年記念事業」の主な取組の一つとして、新たな「滋賀県史」の編さんを行っています。それにあわせて、県庁内外でこの 150 年に関する資料を収集したところ、「こういった資料が残っているのを確認してくれないか」といったご連絡をいただいております。昭和に関する資料を収集・保管するいい機会になっていると実感している、とのことでした。

新たな県史の編さんは、歴史に学び、誇りと愛着を育み、未来を考える契機とすべく行いたい、とのこと、まさに「昭和 100 年」関連施策の趣旨にぴったり合致するものと感じました。

県史編さん事業は、令和 19 年度までを目途とする長期間にわたる事業になるのですが、これを機に昭和を伝える資料が収集され、そこから未来を切り拓く機会となることを大いに期待しています。

昭和 100 年記念展「新聞記事からみえた百年前の湖国」の会期は 5 月 21 日まで。

会期：令和 8 年 2 月 24 日（火）～令和 8 年 5 月 21 日（木）

主催：滋賀県立公文書館（滋賀県庁新館 3 階）

住所：滋賀県大津市京町 4 丁目 1 番 1 号